

# 曾於文藝

うたごよみ

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

## 俳句

### 末吉俳句会

句材刈り払はれし峯秋深む

池田 安起徒

高千穂を望み行厨秋の丘

古藤 まゆ美

朝露の光鏤め宮の坂

西村 セツ

## 大陽俳句会

牛舎から牛の一声夏の果

鍋山 美智子

独り居の身をもてあます夜長かな

逆瀬川 節子

朝霧の美しく蜘蛛の巣捉へたり

岩重 みどり

## 短歌

### 末吉短歌会

担架棒を掴みて意識薄れゆく

ドクターへりは高度300

大森 巳喜生

育て方間違ひしかも初生りの

曲がりしままに意固地なへチマ

平田 美穂子

落花生踏みしだかれて色あたらし

獣のほひ残る畑隅

泊 康

## 大陽短歌会

殺るべきか殺らざるべきか対峙せり

蜘蛛は仏間に微動だにせず

川辺 敦子

車椅子の媪が子供に押されいる

やがて身にふる姿なるらん

西山 美代子

秋の田を見守る案山子数多あり

大谷があり牛馬があり

北村 弘子

## 財部短歌会

米寿なり曾孫五人と輪を広げ

いつしか大木かくしやくありたし

永岡 冴子

サンダルの素足に映ゆるペディキュアよ  
夏に負けじとピンクの歩ゆむ

脇丸 洋子

## 薩摩狂句

### にがごい会末吉支部

山も無ち 人ん山どん

古川 一幹

見つきりつ

人並んの 服く着ろごちやい

桐野 奈世

肥満女房

老夫婦 五体が敵わん

浜田 一好

人並んじや

大鍋掛け 自在鉤や裂けつ

灰が舞つ 胡摩ヶ野 べぶまつ